

「犯罪ゼロをめざして」

栗原市立志波姫中学校 1 年

三浦 舞桜さん

皆さんは「犯罪」という言葉を聞いてどのようなイメージを持ちますか？私は、真っ暗で、ごみごみした場所をイメージします。

志波姫中学校からくりこま高原駅に向かう直線道路の一区画、640メートルを「アルカスロード」といいます。私たちは、毎年春になるとそのアルカスロードに植栽を行います。道路の両脇にある花壇に、部活動ごとに花を植え、その後の管理をしていく活動です。今年はマリーゴールドを植えました。

今年の植栽は6月19日に行われました。正直いうと、疲れるなあという思いで、気が進みませんでした。けれども、その時来ていただいた警察の方のお話を聞いて、植栽は、やる気と勇気のある活動に変わりました。

その方によると、悪いことをする人、企んでいる人というのは、環境が良くない場所やゴミがあつたり汚れていたり、地域の手や目が届いていない場所で、事件を起こすことが多いそうです。だから、このような活動は、地域をきれいにすることと犯罪を防ぐという二つの役割があるのだそうです。

確かに、街の人々の手が届いて、子どもや地域の人たちが集まるきれいな公園などより、汚く、人々が寄りつかないような場所の方が、事件は多いと思います。環境をきれいに整えることで、そこに住む人たちがみんなでその地域を守ろうとしていることが伝われば、悪いことをしようとしている人も、できなくなるのだと思います。

私はこれまで、犯罪をなくすという活動などしたことはありません。でも、その時のお話を聞き、「自分たちの力で、悪いことをしている人や企んでいる人を、正しい方向に導いてあげることができるのか」と思いました。

悪いことをする人は、それなりの理由があるのだと思います。怒りや不満でいっぱいになっているのかもしれませんが。もちろん、どんな理由があろうと、悪いことを許すわけにはいきません。でも、環境を整えることで、そんな人たちの荒れた心を和らげることもできるかもしれません。

「花を植える」そんなささいなことが、犯罪や事件を少なくしていくのだと思いました。

植栽の時、「毎年この時期になると、植えられている花を見て通るのを楽しみにしているんだよ。」と、地域の方が声をかけて下さいました。私たちの植えた花が、地域の方々の役に立っているんだ、とうれしくなりました。

私たちの地域には、他にも、毎朝私たちの安全を見守ってくださっている方々や、いつも私たちに声がけをしてくださる方などがいます。たくさんの方の協力によって、安心・安全な街づくりが進められているのだと、改めて気づくことができました。

自分たちの地域を自分たちで守ろうという意識を持って、犯罪ゼロをめざし、より良い環境作りに力を入れていきたいと思えます。